

(1日目) 11月7日(水)
午前の部「新しいアジアと日米同盟」
特別講演
久間 章生 初代防衛大臣

今回開催される日米安全保障戦略会議は今年で第10回を迎えます。日米のよりよい関係の構築を目指し日米双方の安全保障専門議員による交流事業の一環として訪米を始めたのが14年前で御座います。

又、5年前に安全保障問題を中心とした日米議員や専門家の知的交流事業として本格的な国際会議を行いたいと考えスタートさせたのがこの会議で御座います。

また、個人的なことでは御座いますが、私が防衛庁長官を3回勤めさせて頂き、初代防衛大臣を務めることが出来たことは、皆様からのご支援の賜物でもあり、政治家久間章生として最大の喜びでも御座います。

残念ながら、今回、急遽入院のためこの会議に出席できなくなりましたことは、私にとって大変残念なことでありますが、今日まで多くの皆様のご理解とご賛同を賜り、本日第10回を迎えることが出来たことを感謝申し上げます。

今回の会議は、日米同盟にとって大変重要な時期に開催されることとなりました。この私のメッセージを皆さんがお聞きになる11月7日の時点では、インド洋における海上自衛隊の給油支援活動は中断されていることと思います。現在開催されている臨時国会における政府の最重要課題は、この給油活動を延長するための法案を通過させ、活動を継続することでした。私自身も、この給油活動が多く、特にイスラム国家でありながら、海上阻止活動に参加しているパキスタンにとって大変重要であることを深く認識しております。政府も野党の方々の理解を得るべくさまざまな努力をしてきたのですが、残念ながら、給油活動の中断という事態に立ち至りました。

さらに、この議論の過程で、4年前の米空母キティホークへの給油をめぐり、当時の政府の発表内容が誤っていたことが明らかになったために、本来は「我が国は堂のような形で『テロとの戦い』に貢献すべきか」という議論であるべきものが、「当時の防衛庁・自衛隊で情報の隠ぺいがあったのではないか。」あるいは「日本政府は米国の言いなりなのではないか。」という議論に偏ってしまった感があります。また、政府もこうした指摘に答えるため、「不眠不休」で努力をしていると承知しています。また、米国をはじめとする関係国にも非常に苦勞していただいていると聞いているところです。

我が国のような民主主義国家では、国会における指摘に誠実に答えていくことは非常に大切です。また私自身、本年7月まで防衛大臣の職にあったものとしていろいろな疑問が示されていることに対し、大いに責任も感じています。

しかし、そのうえで申し上げれば、こうした議論を行うとき、私たちは、日米同盟関係の重要性を常に念頭に置き、また、国民にも訴えていかなければならない、と私は考えています。ややもすれば、枝葉の議論がもてはやされ、枝葉ではなく木、さらには木ではなく森を見据えた議論が忘れられる危険があると思います。この会議に集う私たちは、こうしたことを念頭に置き、強固な日米同盟関係が両国とアジアにもたらす大きな利益について常に訴えていくことが必要なのではないでしょうか。

今回で10回目を迎えるこの会議でこれまで議論されてきた問題、たとえばミサイル防衛問題や情報保全をめぐる問題は、日米をめぐるさまざまな問題があったなかでも、着実に前進しています。私自身も、率直に発言をさせていただきながら、日米両国の利益になることはなにか、どうすれば両国の Win-Win Game になるのか、追求してまいりました。この会議は、日米同盟の意義を常に発信し、中長期的な課題に取り組んでいく、政府同士ではない交流関係、いわゆる「セカンド・トラック」の会議として、今後ますます意義を増していくことになると思います。率直に申し上げて、国際貢献の問題のみならず、日米間では今後もいろいろな問題が生じることと思います。しかし、私たちはそうした表面上の問題に流されず、日米同盟の真の価値を理解し、戦略的な議論を深めていくべきであると考えます。

この秋、我が国周辺でも、中国共産党大会の開催や朝鮮半島の非核化をめぐる議論など重要な動きが出てきています。また、米国のゲーツ国防長官が我が国を含むアジア諸国をまさにこの会議と重なるように歴訪するとの報道も聞いております。私自身は今回の会議に直接参加できず、非常に残念ですが、参加した皆様が、日米同盟の重要性をよく認識いただき、活発な議論をしていただくことを期待いたします。

以上